

シャインマスカットせん定のポイント

佐賀県果樹試験場 落葉果樹担当 係長 太田 政隆

シャインマスカットは、花穂の着生が良く、長梢せん定と変わらない収量・品質が得られることから、ほとんどが短梢せん定で栽培されています。ここではせん定の基本的な考え方について述べます。

【整枝法（仕立て方）】

短梢せん定の整枝法には、一文字型（2本主枝）、H型（4本主枝）、6本主枝、WH型（8本主枝）があります。主枝数が多いほど樹勢が落ち着きます。本県ではH形を基本にしています。

6本主枝、WH型など主枝を多く配置する場合は、外側の主枝が最も強くなるように維持する必要があります。外側の主枝づくりを優先して行い、内側の主枝づくりは遅らせて強くなり過ぎないように注意します。

【せん定時期】

落葉直後は耐寒性が低く、せん定後に厳しい寒が来ると切り口から枯れ込みます。本せん定は十分冷え込んだ後に始め、樹液が流動する前に終わらせます（1月～2月上旬頃）。

【せん定方法】

（主枝延長枝）

シャインマスカットは節間が長いため、主枝に不発芽が起こると座芽が欠けて棚面に無駄な空間ができてしまいます。主枝延長枝の新梢は20芽程度で切り返し、芽傷処理を行って確実に発芽させます。

（結果母枝）

短梢栽培では、葉数を確保するためにできるだけ主枝の近くから結果枝（新梢）を出す必要があります。主枝に近い結果母枝のはっきりと芽とわかるものを1～2芽残して、乾燥と枯れこみを防ぐため1つ先の芽の後ろ（節の部分）で切ります（図1）。

○芽座が欠けている場合の対応

1～2芽座欠けている場合は、両側の結果母枝の芽を長めに残すか反対側の芽を使って新梢を確保し、空間を埋めます。

3芽座以上欠けている場合は、返し枝で補います（図2）。枝が強い場合は勢いを弱めるために先端の反対側に誘引します。

【芽傷処理】

ブドウは、新梢を長く残すと先端の芽が強く伸び出して基部の芽の伸びが抑えられます。主枝延長枝の新梢は頂芽より下の全ての芽に芽傷処理を行って発芽を促します。せん定が終了して樹液流動が始まる7日～10日位前に、芽の上側に芽傷はさみやせん定はさみ、糸ノコ等で幅5～10ミリ、深さ2ミリ位の傷を入れます（図3）。

芽傷に加えて、CX10の20倍液またはメリット青2倍液を処理すると発芽促進効果が高まります。特に太くて勢いが強い新梢は発芽が揃いにくいので効果的です。

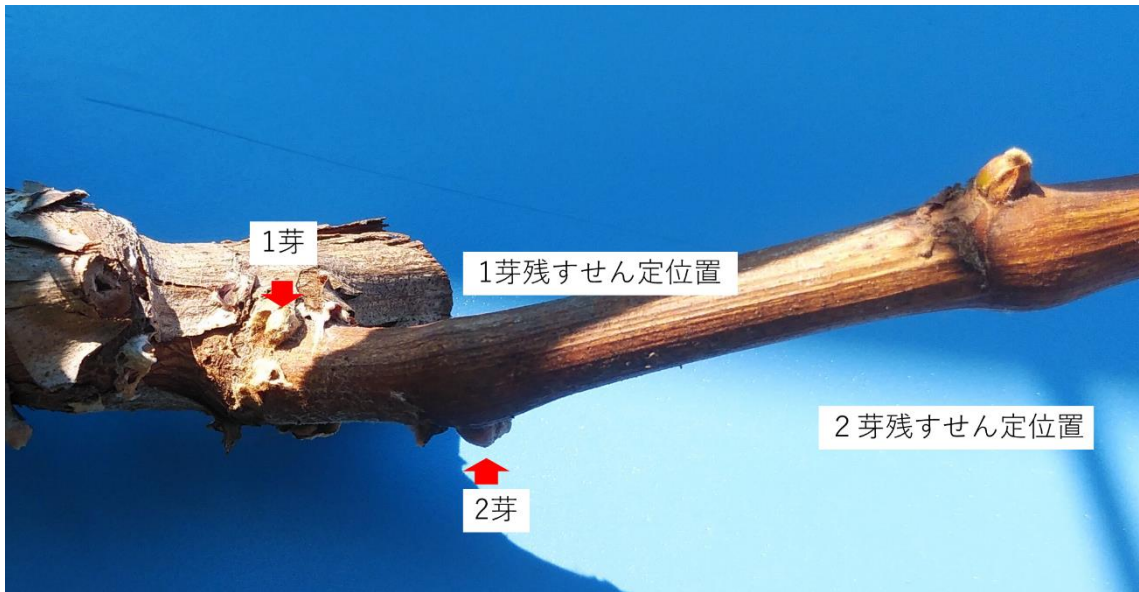


図1 短梢せん定の結果母枝を切る位置

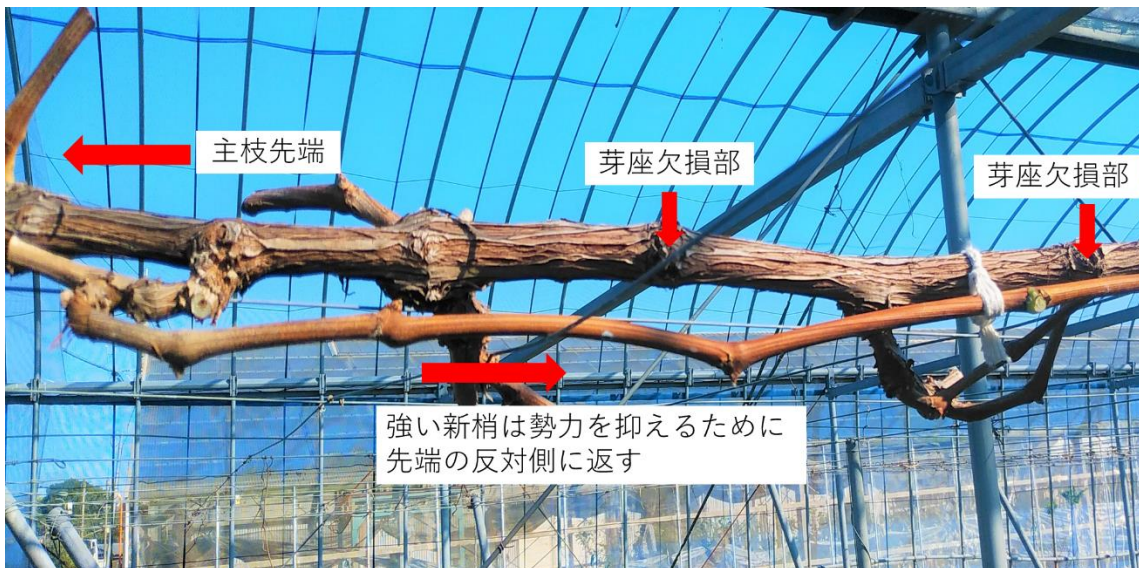


図2 芽座欠損部の補い方



図3 芽傷はさみを使った芽傷処理